

2023年2月期 第2四半期 (2022年3月1日~8月31日)

決算説明資料



©2022「すずめの戸締まり」製作委員会

2022年10月12日(水)

東宝 TOHO

Entertainment for YOU

— 世界中のお客様に 感動を —

2023年2月期 第2四半期 営業概況

	2022年2月期 (2021年3月～8月)	2023年2月期 (2022年3月～8月)	前期比	増減率
営業収入	118,050百万円	120,353百万円	2,302百万円	2.0% ↗
営業利益	21,463百万円	25,984百万円	4,521百万円	21.1% ↗
経常利益	22,752百万円	30,213百万円	7,461百万円	32.8% ↗
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,081百万円	21,558百万円	6,477百万円	42.9% ↗

※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較しています。
 なお、収益認識会計基準適用の影響額は、当第2四半期連結累計期間の営業収入は10,405百万円減少し、営業原価は7,010百万円減少し、販売費及び一般管理費は3,082百万円減少し、営業利益は312百万円減少し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ315百万円減少しております。

2023年2月期 第2四半期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と今後3カ年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」とから構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を本年4月に策定し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組んでおります。詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、オミクロン株の感染再拡大に伴い、当第2四半期においても継続しております。

演劇事業においては、一部演目において、公演関係者の感染により公演中止が発生し、業績に影響を与えました。

【第2四半期決算の概況】

映画営業事業において、『シン・ウルトラマン』、『トップガン マーヴェリック』の続映に加え、『キングダム2 遥かなる大地へ』や『ジュラシック・ワールド／新たなる支配者』等のヒットがあり、収益認識会計基準の適用により減収となったものの、大幅な増益。

映画興行事業において、4度目の緊急事態宣言発出を受けた営業時間短縮等があった前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記の東宝グループ配給作品を中心としたヒットや『ONE PIECE FILM RED』の大ヒットもあり、大幅な増収増益。

映像事業において、「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「僕のヒーローアカデミア」等のTOHO animation作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、動画配信等の多面的展開により好調に推移したものの、『ウマ娘 プリティーダービー Season 2』のパッケージが大きなセールスを記録した前年同期と比べ、減収減益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、『ミス・サイゴン』等が盛況に推移したものの、公演が一部中止となった演目が複数あり、増収となるもわずかに減益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において保有物件が堅調に稼働したことに加え、道路事業が好調な成績を収めたことにより、全体では増収増益。

※新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大規模施設に対する協力金等を「助成金収入」として特別利益に計上しております。

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2022年2月期 (2021年3月～8月)	2023年2月期 (2022年3月～8月)	増減率	2022年2月期 (2021年3月～8月)	2023年2月期 (2022年3月～8月)	増減率
①映画事業	77,713	78,199	0.6% ↗	13,622	17,245	26.6% ↗
映画営業	22,649	19,968	-11.8% ↘	5,433	7,758	42.8% ↗
映画興行	28,902	38,378	32.8% ↗	1,204	5,331	342.6% ↗
映像事業	26,161	19,853	-24.1% ↘	6,984	4,155	-40.5% ↘
②演劇事業	6,576	8,348	26.9% ↗	1,147	1,101	-4.0% ↘
③不動産事業	32,482	33,234	2.3% ↗	8,667	9,521	9.9% ↗
不動産賃貸	13,470	13,899	3.2% ↗	5,884	6,072	3.2% ↗
道路事業	14,174	14,606	3.0% ↗	2,307	3,025	31.1% ↗
不動産保守・管理	4,836	4,729	-2.2% ↘	475	424	-10.7% ↘
④その他事業	1,277	570	-55.3% ↘	▲ 101	102	—

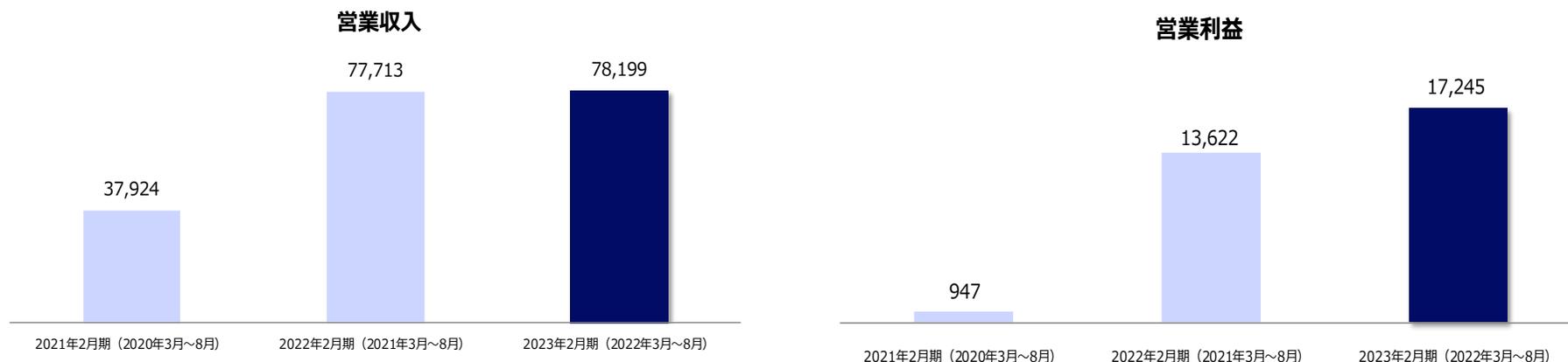
※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識適用前の前期数値を用いて比較。（単位：百万円）
 なお、収益認識会計基準適用の影響額は、当第2四半期連結累計期間の「映画事業」の売上高は9,625百万円減少、セグメント利益は289百万円減少し、「不動産事業」の売上高は321百万円減少し、セグメント利益は14百万円減少しております。

セグメント別業績（四半期別）

	営業収入		営業利益	
	第1四半期 (2022年3月～5月)	第2四半期 (2022年6月～8月)	第1四半期 (2022年3月～5月)	第2四半期 (2022年6月～8月)
①映画事業	39,528	38,670	9,230	8,015
映画営業	11,727	8,240	4,800	2,957
映画興行	17,339	21,038	2,089	3,242
映像事業	10,461	9,392	2,340	1,814
②演劇事業	4,561	3,787	737	364
③不動産事業	17,477	15,756	5,193	4,328
不動産賃貸	6,939	6,959	3,027	3,045
道路事業	8,048	6,557	1,942	1,082
不動産保守・管理	2,489	2,239	223	200
④その他事業	297	273	57	44
合計	61,865	58,487	14,273	11,710

(単位:百万円)

セグメント別業績【映画事業】



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。過去2年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、興行収入130億円に迫った『トップガン マーヴェリック』の続映をはじめ、『シン・ウルトラマン』(同44億円)、『キングダム2 遥かなる大地へ』(同50.6億円)、『ジュラシック・ワールド/新たなる支配者』(同62.2億円)、『ミニオンズ フィーバー』(同44億円)等のヒットがあり、収益認識会計基準の適用により減収となったものの、大幅な増益。
(興行収入は2022年9月末時点)
- 映画興行事業では、前年の緊急事態宣言の発出を受けた、東京・関西圏の映画館の臨時休業があった前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記の東宝グループ配給作品を中心としたヒットや『ONE PIECE FILM RED』(東映)の大ヒットもあり、大幅な増収増益。
- 映像事業では、アニメ制作事業において、「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「僕のヒーローアカデミア」等、TOHO animation作品の商品化権、動画配信等の各種配分金収入が好調に推移。ODS事業では、『劇場版「からかい上手の高木さん」』等を提供。出版・商品事業では、劇場用パンフレットの販売において『トップガン マーヴェリック』が好調に推移。
映像事業全体として、『ウマ娘 プリティーダービー Season 2』のパッケージが大きなセールスを記録した前年同期と比べ、減収減益。

当第2四半期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
キングダム2 遥かなる大地へ	7月15日	50.6
シン・ウルトラマン	5月13日	44.0
今夜、世界からこの恋が消えても	7月29日	14.8

東宝東和(株)等配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
トップガン マーヴェリック	5月27日	129.6
ジュラシック・ワールド／新たなる支配者	7月29日	62.2
ミニオンズ フィーバー	7月15日	44.0

(興行収入は2022年9月末日時点 単位：億円)

当第2四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：円)

	2023年2月期	2022年2月期	前期比
3月	4,404,406,530	10,122,378,904	43.5%
4月	7,382,498,300	8,940,877,900	82.6%
5月	8,719,197,550	3,087,028,450	282.4%
1Q	20,506,102,380	22,150,285,254	92.6%
6月	2,616,709,220	2,990,184,400	87.5%
7月	4,161,316,842	6,968,430,230	59.7%
8月	4,150,819,820	7,645,189,650	54.3%
2Q	10,928,845,882	17,603,804,280	62.1%
上期計	31,434,948,262	39,754,089,534	79.1%

※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

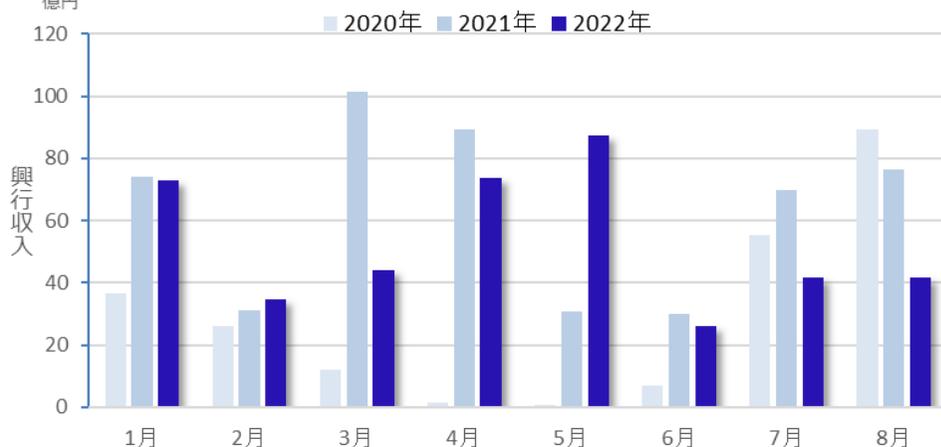
映画興行事業 興行収入推移

(単位：円)

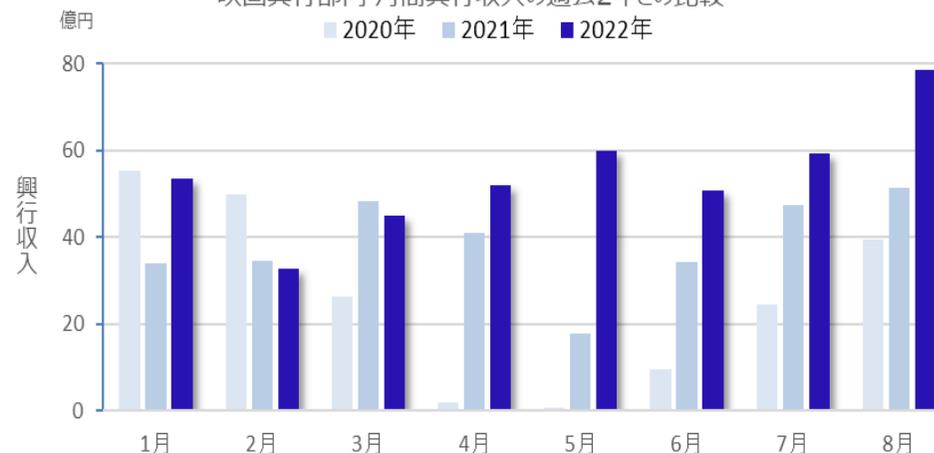
	2023年2月期	2022年2月期	前期比
3月	4,494,828,738	4,842,139,643	92.8%
4月	5,203,206,024	4,099,777,614	126.9%
5月	6,004,059,601	1,775,416,231	338.2%
1Q	15,702,094,363	10,717,333,488	146.5%
6月	5,092,951,293	3,440,625,871	148.0%
7月	5,949,442,860	4,741,518,384	125.5%
8月	7,871,720,015	5,130,905,686	153.4%
2Q	18,914,114,168	13,313,049,941	142.1%
上期計	34,616,208,531	24,030,383,429	144.1%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

映画営業部門 月間興行収入の過去2年との比較

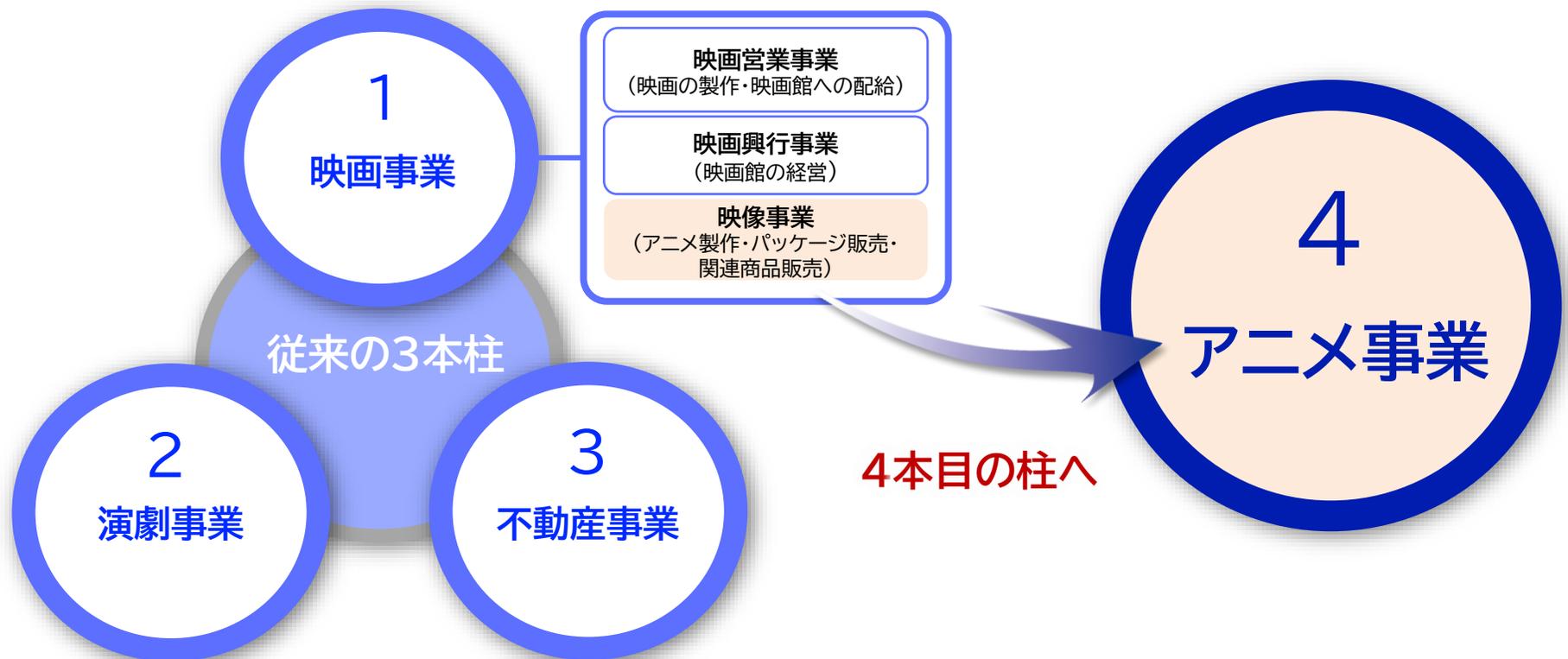


映画興行部門 月間興行収入の過去2年との比較



「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」の「長期ビジョン 2032」において、映画事業、演劇事業、不動産事業といった従来の「3本の柱」に加えて、アニメ事業を「第4の柱」とすべく取り組みを進めております。

事業ポートフォリオの方向性 ～事業の3本柱から4本柱へ～



当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図ります。

9月27日に開示しました「組織変更及び執行役員の担当変更に関するお知らせ」にありますように、アニメ事業の強化のため「アニメ本部」と、その直下に新部署「TOHO animation」を新設し、取り組みを加速させてまいります。

なお、当第2四半期のTOHO animationの主要稼働作品は下記のとおりです。

TOHO animation 当第2四半期（6～8月）の主要稼働作品

作品名	主な収入項目
「僕のヒーローアカデミア」 (TVシリーズ1～5期、劇場用映画3作品等)	商品化権収入（国内）
	商品化権収入（海外）
	動画配信収入（海外）
「呪術廻戦」 (TVシリーズ、劇場用映画)	商品化権収入（国内）
	動画配信収入（国内）
	キャラクターグッズ販売収入
「SPY×FAMILY」 (TVシリーズ)	動画配信収入（海外）
	動画配信収入（国内）
	パッケージ収入

TVアニメ「SPY×FAMILY」



10月より23:00にてテレビ東京他にて第2クール放送中
各種動画サービスでも配信中。

「SPY×FAMILY」は集英社の運営する漫画アプリ「少年ジャンプ+」内で2019年から連載がスタートし現在まで5億PV閲覧されている超人気Webマンガ。既刊10巻にして累計発行部数は2,650万部を超え、数あるWebマンガ作品の中でもトップクラスの人気を博している。

2020年の『このマンガがすごい!』（宝島社）ではオトコ編の第1位に選ばれるなど、数々のマンガが賞を受賞。その勢いは国内だけに留まらず海外でも高い評価をされている。

テレビ東京での視聴率は平均2.7%、録画を含む総合視聴率は平均9.4%、動画配信ランキングでも7週連続で1位を記録する（GEM Partners 6/15調べ）など、回を重ねるごとに勢いを増し老若男女問わず幅広い層に広がっている。

「SPY×FAMILY」Vol.3 初回生産限定版 Blu-rayは11月16日発売予定。

TVアニメ「僕のヒーローアカデミア」



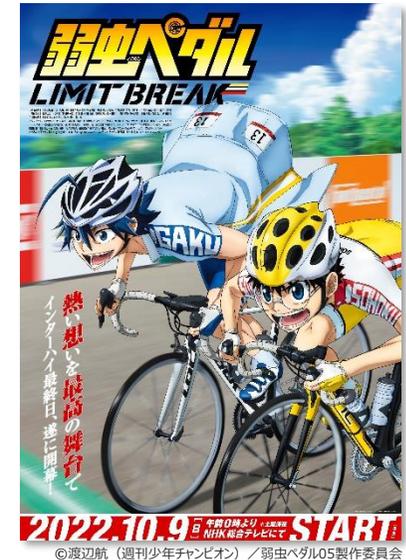
TVアニメ第6期、毎週土曜夕方5:30放送中!

原作はコミックスシリーズの世界累計発行部数6,500万部を誇る、週刊少年ジャンプ(集英社刊)で連載中の堀越耕平による大人気漫画。

(TVアニメシリーズ)
2016年4月の第1期を皮切りにこれまでに第5期まで放送。
2022年10月より第6期が放送開始。

(新作オリジナルアニメーション)
海外アニメコンベンション(Anime Expo、Japan Expoのメインステージ)にて上映され、好評を博す。
8月1日より各配信プラットフォームにて日本・海外同時配信中。

TVアニメ「弱虫ペダル」



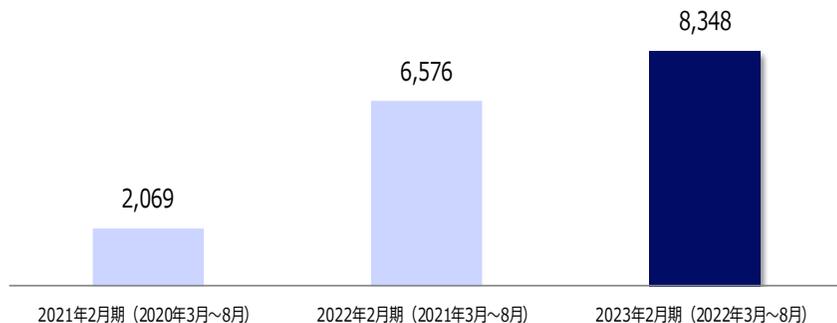
待望のTVアニメ5期、NHK総合テレビで放送中!

原作は「週刊少年チャンピオン」(秋田書店)で連載中、自転車ロードレースに全てを懸ける高校生たちのドラマを描くアニメシリーズ待望の5期!

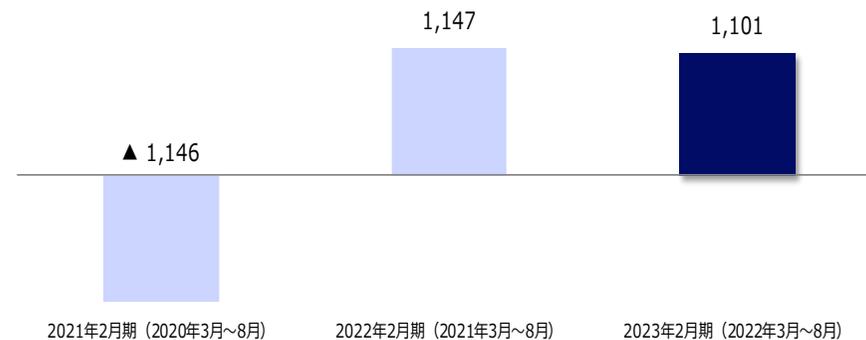
(TVアニメシリーズ)
2013年~2018年までの間に1期~4期が放送され、その間にシリーズ総集編3本やオリジナル劇場版を上映。
2022年10月より第5期が放送開始。

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



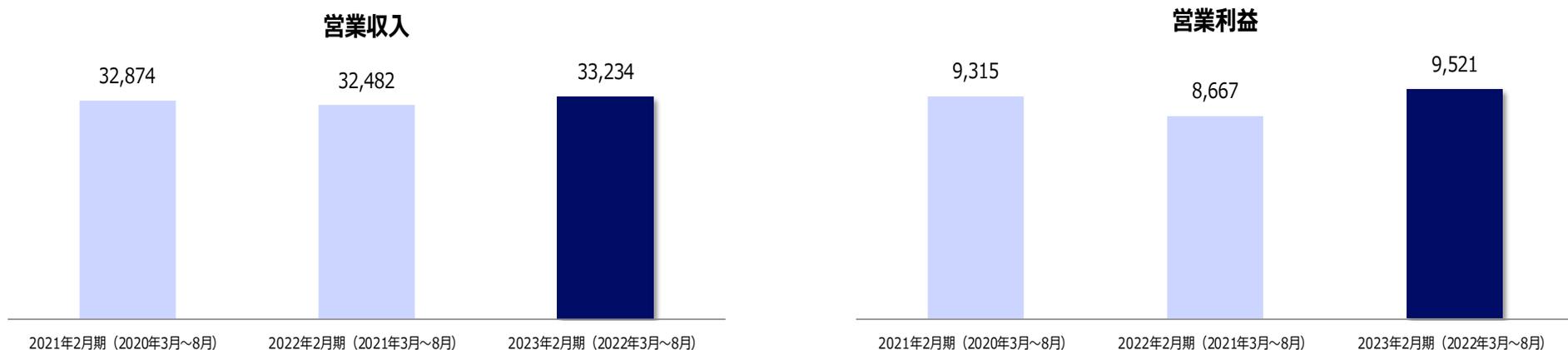
※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。過去2年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では、『ガイズ&ドールズ』(6~7月公演)、『ミス・サイゴン』(7~8月公演)が盛況。シアタークリエでは、『CROSS ROAD~悪魔のヴァイオリニスト パガニーニ~』(6月公演)、『Only 1, NOT No.1』(7月公演)、『スラムドッグ\$ミリオネア』(8月公演)、『ダディ・ロング・レッグズ』(8月公演)等を上演。
- 東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、前年同期に比べ事業環境が改善し、上記のような動員力のある公演を行うことができたものの、新型コロナの影響で一部公演中止となった演目が複数発生したため、わずかに減益。

セグメント別業績【不動産事業】



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。過去2年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が順調に稼働したため、増収増益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めた結果増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注の獲得の取り組みや経費削減に努めたものの、受注回復の動きは鈍く、減収減益。

業績予想

■ 2023年2月期連結業績予想（2022年3月1日～2023年2月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円. 銭
前回発表予想 (A)	232,000	38,000	41,000	28,500	161.41
今回修正予想 (B)	240,000	42,000	45,000	32,000	181.45
増減額 (B-A)	8,000	4,000	4,000	3,500	
前回発表増減率	3.4%	10.5%	9.8%	12.3%	
(ご参考) 2022年2月期実績	228,367	39,948	42,790	29,568	167.24

主力の映画事業において、『トップガン マーヴェリック』および『ONE PIECE FILM RED』のヒット等により第2四半期連結累計期間までの業績が当初予想を上回ったこと等から、2023年2月期の連結業績予想を修正いたします。

(注) 上記業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであって様々な不確定要素が内在しており、その実現を確約するものではありません。実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

配当予想

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2023年2月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00
(ご参考) 2022年2月期実績	—	17.50	—	27.50 (特別配当10円含む)	45.00

※当期より、「中期経営計画 2025」で公表しましたとおり、株主還元の新たな数値目標として従来の基本的な水準であった年間配当金35円から年間配当金40円（上期20円 下期20円）へ、ベースを変更しております。

※直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 総務部 広報・IR室
TEL:03-3591-1214 Mail:pr_ir@toho.co.jp